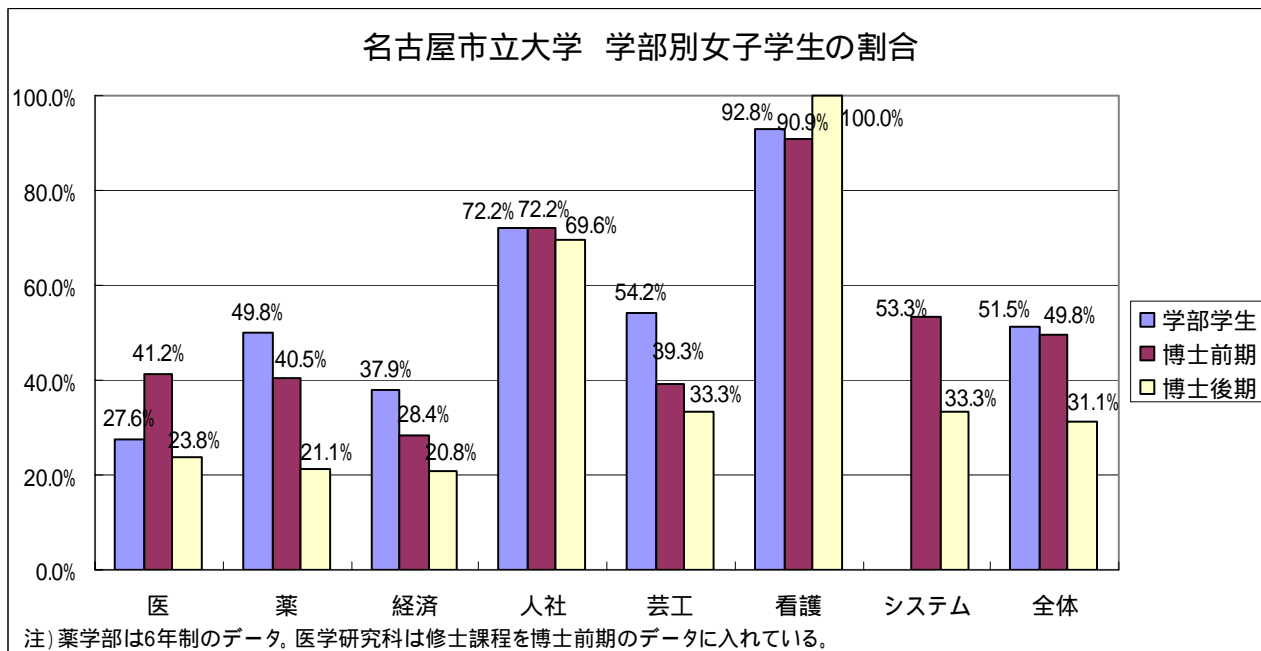


名古屋市立大学における学生・教職員のジェンダーバランス（概要版）

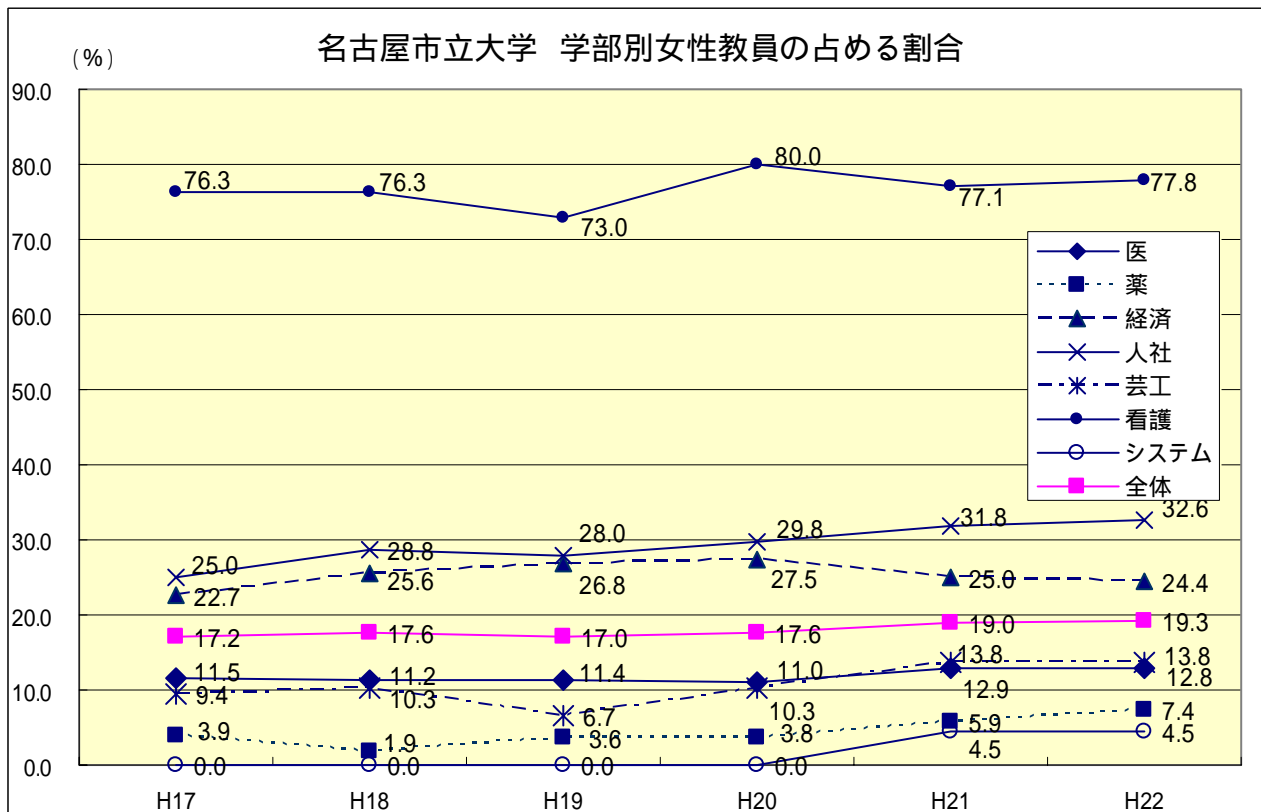
データ：(学生)平成22年5月1日現在 (教職員)平成22年8月1日現在

1 学生のジェンダーバランス



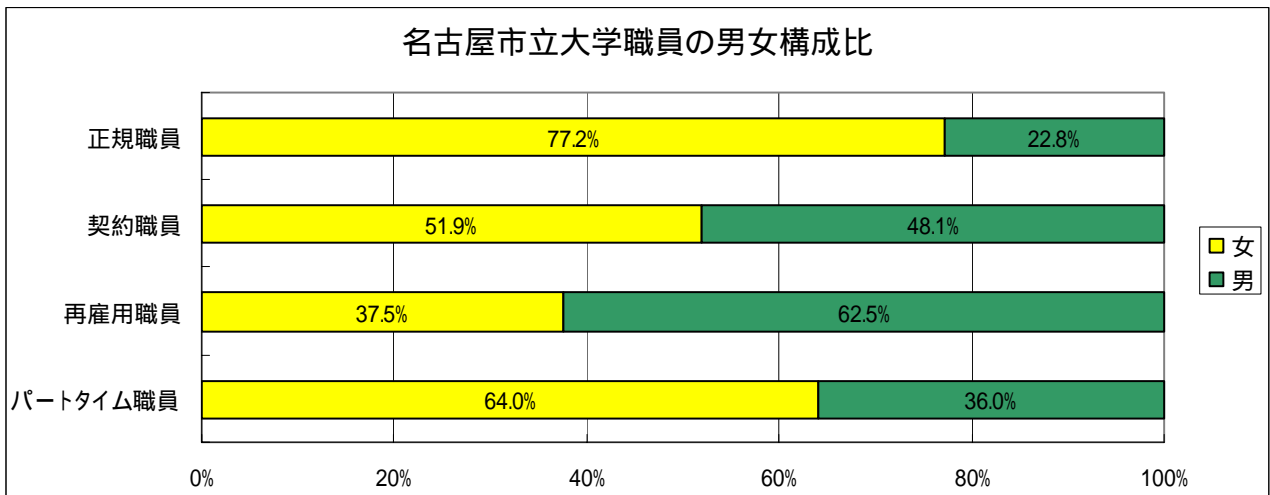
- 学部や博士前期課程の学生では女子学生が半数と多いが、性別により専攻分野の偏りが見られる。看護や人社では女性が多いが、医・薬・経済の博士後期課程学生では男性が多い。
- 学部から大学院に上がるにつれ女子学生の比率が低くなる。

2 教員のジェンダーバランス

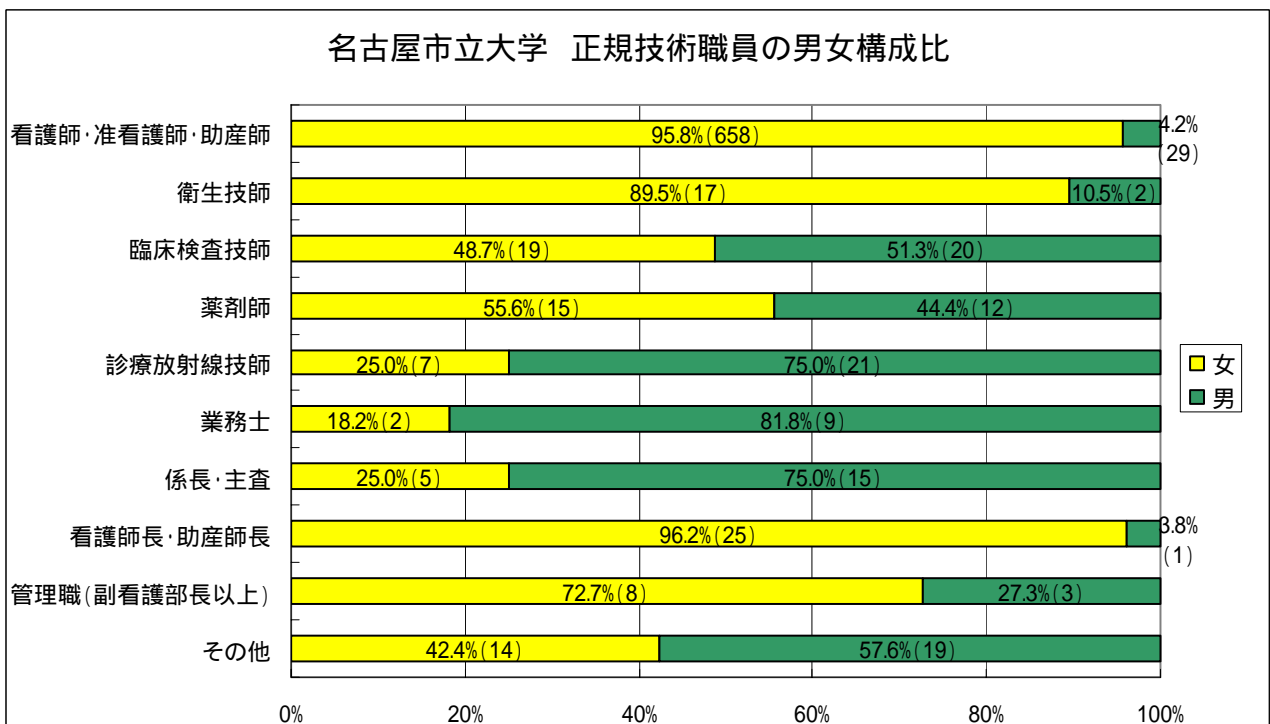
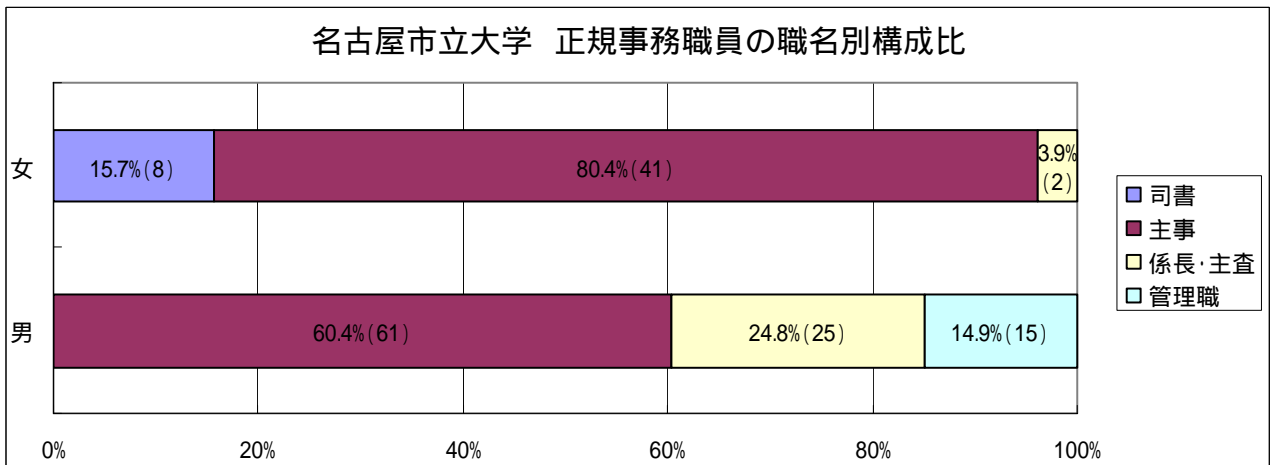


- 教員の女性比率は19.3%であり（平成22年5月）学生の女性比率に比べて低い。
- 看護学部を除いた研究科では女性教員比率は低く10%以下の研究科もある（薬、システム）。

3 職員のジェンダーバランス

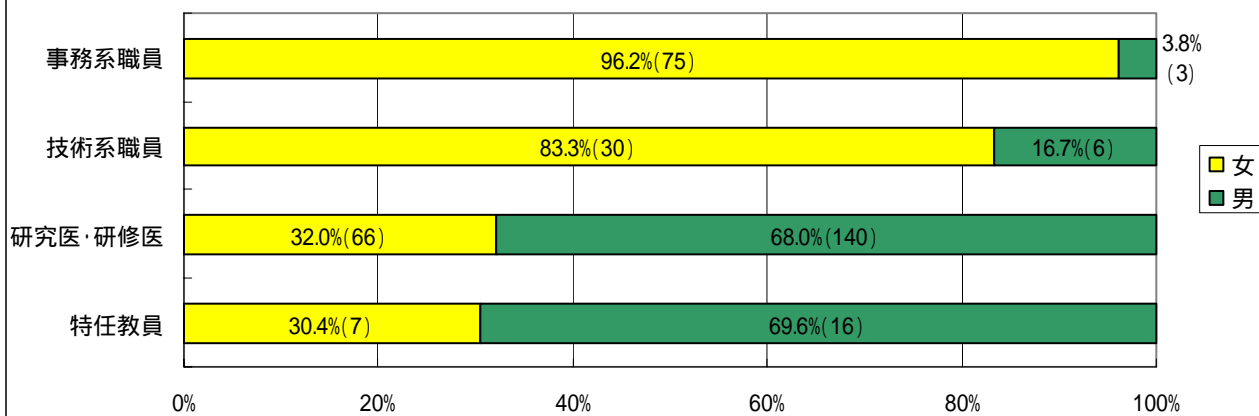


- ・ 正規職員をはじめとして、女性職員の比率は高い。

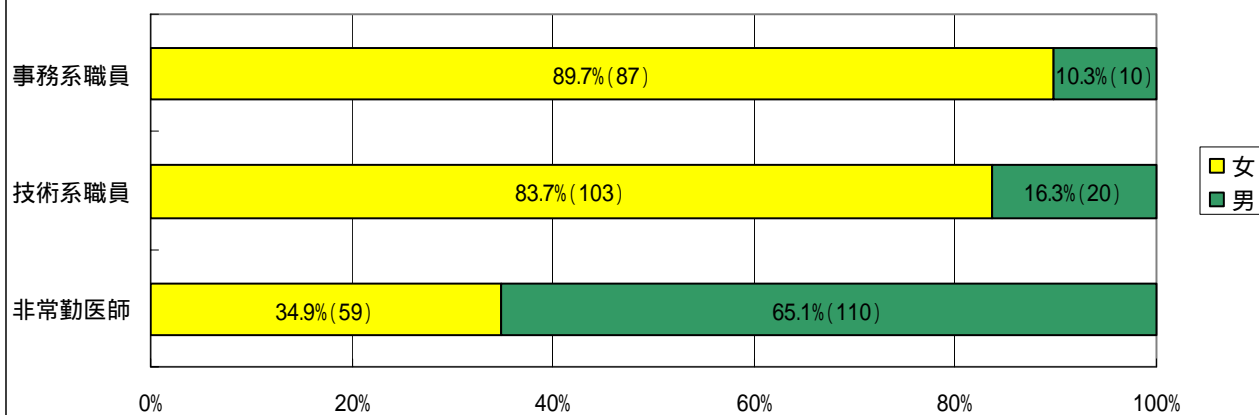


- ・ 正規の事務職員では、女性に比べて男性が主査・係長や管理職など上位の職についている。
- ・ 正規の技術職員では、女性比率の高い職種と男性比率の高い職種が明確に分かれている。

名古屋市立大学 契約職員の男女構成比



名古屋市立大学パートタイム職員の男女構成比



- ・ 契約職員、パートタイム職員でも女性比率の高い職と男性比率の高い職に分かれている。事務系・技術系職員には女性が、医師には男性が多い。